

石見



保育園玄関の松本儀重さんの遺影の
周りには、卒園児らの花束や手紙が
置かれている=埼玉県行田市若小玉

男性は、村尾さんの遺言を通して
交流がある保育園「行田芋羊チャイ
ルドセンター」(行田市)の用務員
だった松本儀重さん。昨年7月、病
気で70歳で亡くなるまで遊具づくり
や庭木の枝切り、給食の手伝い、園
児たちの写真撮影、泣き止まない子
をおんぶしての散歩など、何でも器
用に対応した。松本さんがあぐらを
かくと、園児たちは競うようにひさ
を取り合った。

村尾さんは、そんな心温まる触れ
合いの数々を、松本さんの跡で保育
園を運営する社会福祉法人「いろり
じ会」理事の市川益子さん(85)から
かくと、園児たちは競うようにひさ
を取り合つた。

江津市鶴野津町の作家村尾靖子さん(68)
が、埼玉県の保育園で「おじちゃん」と慕
われた男性と園児たちの交流など実話を基
にした絵本「おじちゃんせんせいだいだい
だーぐわー」(今人舎)を出版した。

園児と用務員の交流、絵本に

男性は、村尾さんの遺言を通して

死後に教えられた。心を打たれ
て出版社勤める友人に相談すると、
絵本作りが決まった。



絵本を出版した村尾靖子さん=江津市鶴
野津町

卒園生の手紙や花束、遺影に

絵本は32ページ。おかげさんが恋しく
て泣く子どもをおんぶし、「がまん
せんでええむ」と優しく見守る。運動
会や農作業と一緒に取り組み、園
児たちと仲良くなっていく。だがあ
る日、元気がなくなったおじちゃん
せんせいは、いたかのうちに帰って
いく。イラストレーターの山本
祐司さんが優しいタッチで描いた。

松本さんは晩年、体調がすぐれな
くても保育園に来て2階の廊下で
横になつて、園児たちの元気な声に
耳を傾けるのを楽しみにしていた。
市川さんは「子どもたちと心がつな
がり癒やしなつっていたのかわ」。
亡くなつた後、小学生や高校生らの
卒園児が手紙や花束を持ってきてくれるのを見て、そう感じたといひ。
村尾さんは「亡くなる数日前に保育
園を訪ねたとき、松本さんが『また
会いましょう』と見送つてくれた姿
が忘れられない。「園児たちに愛情
を注ぎ続けた、彼の生き方を伝えた
いと願つた。多くの人に読んでもら
えたら」と語じてゐる。1470

■白浜店
TEL(0852)27-8911
FAX(0852)27-6651

■北堀店
TEL(0852)245577

■工場・浜乃木店
TEL(0852)27-8911

■山陰名産
あじや焼・あじや茶
長岡屋